

平成20年度

第2回

(地域別研修)

アジア・アフリカ地域畑地帯農業管理普及職員
実施要領

平成20年6月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. コース基本情報	1
2. コース背景、目的	1
3. 到達目標	1
4. 研修プログラム	2
5. 研修員参加資格要件	3
6. 研修実施体制及び運営	3
7. 研修の評価	4
8. 研修付帯プログラム	5
9. 研修・宿泊施設	6
10. その他	6

付 属 資 料

- 付表 1 研修員の業務関連情報
- 付表 2 コースカリキュラム（案）
- 付表 3 平成 20 年度日程表（案）
- 付表 4 年度別受入実績表

1. コース基本情報

(1) コース名

和文：(地域別) アジア・アフリカ地域畑地帯農業管理普及職員

英文：Area Focused Training Course on Upland Cereal Crops Management
for Extension Officers in Asia and Africa

(2) 受入期間

平成 20 年 6 月 1 日 (日) ~7 月 30 日 (水)

(3) 技術研修期間

平成 20 年 6 月 9 日 (月) ~7 月 29 日 (火)

(4) 定員、割当国

定 員：8 名

割当国：ケニア、マラウイ、パキスタン、ジンバブエ

2. コース背景、目的

食糧不足が懸念される現在、途上国の主要産業である農業は、現地に応じた栽培技術の導入と効率的な普及体制が必要であり、その向上は世界の食糧事情の改善に大いに貢献できる。同時に大量の食糧輸入国の日本にとって重要である。

わが国農業がこれまで体験した農業栽培技術の導入とそれに伴う普及体制・制度および作物栽培技術普及における効率的な解決策を習得することにより、途上国の農業普及制度が確立され、ひいては今後の農業発展に寄与することを目的とする。

3. 到達目標

- (1) 効率的畑作物栽培技術を説明できる。
- (2) 効率的普及方法・体制を説明できる。
- (3) 作物栽培技術普及における自国での課題を整理し、普及の企画・実施・評価を通して解決策の計画策定ができる。

4. 研修プログラム

(1) 研修内容

来日後一週間のオリエンテーションの後、帰国までの期間、研修を実施する。主に講義、実習、視察、討論から構成される。

ア. コースカリキュラム（案）（付表-2 参照）

イ. ジョブレポート（以下 J/R）発表会

(7) 目的

- a. 研修員自身が問題点を再認識する。
- b. 研修員相互間で問題意識を共有する。
- c. 講師が研修員の業務内容、研修で習得したい技術・知識を理解する。

これらの発表を通じ、講師より個々の研修員の期待に対して研修でできること、できないことを明確に示す意見交換の場とする。

(4) 発表内容

J/R 発表会において、各研修員は以下の3点について主に発表する。

- a. 自国でどのような仕事に従事しているのか。
- b. 仕事において現在どのような問題を抱えているか。
- c. 研修の中で習得したい技術、知識

ウ. アクションプラン（以下 A/P）発表会

(7) 目的

- a. 研修員が帰国後に取り組むべき課題を明確にする。
- b. 可能な計画の立案能力向上
- c. 研修結果の資料として帰国後利用する。

(4) 発表内容

J/R で発表した問題点、また、研修中に新たに想定された問題点の解決のための計画を策定し、その目標達成のための A/P を発表する。A/P の必要記載事項として、タイトル、解決すべき問題に対する目標、期間、場所、事業主体、活動内容などについて記述する。

- (2) 使用言語 英語

5. 研修員参加資格要件

当該コース募集要項（以下 G. I. :General Information）記載の条件

- (1) 農業技術・研究開発に取り組み、畑作物（主に小麦、馬鈴薯、豆類）栽培に関し、農民に直接技術指導をしている農業普及員（大学での研究者および行政官を除く）
- (2) 年齢が25歳から45歳以下で、当該分野で3年以上の経験を有する者
- (3) 畑地実習が多いため、十分な体力があり、女性に関しては妊娠していない者
- (4) 大学卒業または同等の学力を有する者

各コース共通資格要件

- (1) 所定の手続により割当国政府から推薦されていること
- (2) TOEFL CBT200点（PBT578点）以上に相当する英語能力を有すること
- (3) 心身ともに健康であること
- (4) 軍隊に服役していないこと

6. 研修実施体制及び運営

本コースは、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（以下 JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を社団法人北方圏センター（以下 NRC）に委託し、関係諸機関の協力により運営するものとし、具体的業務分担は次のとおりとする。

- (1) JICA 帯広
 - ア. 実施計画書作成（コース目的、到達目標、期間など）
 - イ. 評価
 - ウ. 実施予算の執行管理
 - エ. G. I. および実施要領等の作成
 - オ. その他

(2) NRC

- ア. 日程表の調整・作成
- イ. 講師、視察先等への連絡・確認
- ウ. テキスト、資料等の手配
- エ. その他

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) 研修監理員

技術研修期間中、(財)日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。

- ア. 研修員および関係者との連絡調整
- イ. 通訳
- ウ. その他

7. 研修の評価

(1) 評価の目的

コースの到達目標（1頁参照）に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの質的改善を図る。

(2) 評価の方法

- ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握
- イ. 研修員が提出する質問票（JICA 所定様式）による評価
- ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 改善検討会

研修員帰国後に、評価結果に基づき JICA、コースリーダー、講師、NRC 等 が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降のコース改善に向けて対応方針を検討する。

8. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に帯広国際センター（以下 OBIC: Obihiro International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、パスポート・ビザの有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

OBIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、経済、教育、政治・行政などの紹介をする。

(3) 日本語講習

国際交流および研修員の日常生活のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 10 時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程

日 程	内 容
6月2日（月）	ブリーフィング
6月3日（火） 午前	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」
6月4日（水） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の政治、行政」「日本の経済」 講義「日本の歴史・文化」「日本の教育」
6月5日（木）	日本語講習
6月6日（金）	日本語講習

9. 研修・宿泊場所

帯広国際センター（OBIC）

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1 番地 2

Tel : 0155-35-2001 Fax : 0155-35-2213

10. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修ビザを取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育支援

国際理解教育とは、教育の中に国際的側面を持たせ、各国の文化、社会、人々の暮らし、日本との関係など自分と世界との相互関係を学ぶ教育をいう。国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
URL : www.jica.go.jp/worldmap/hokkaidou.html#obihiro

(単位:day)

小項目	カリキュラム	講義	実習	視察	討論	担当講師	講義目的	講義内容
到達目標1: 効率的作物栽培技術を習得する								
農業の概要	日本の農業	0.5				農業振興公社	日本の農業概要を紹介、課題と問題点の対策を知る	日本の農業の現状、今後の進展方向
	帯広市の農業と技術センターの役割	0.5		0.5		農政課	帯広市の農業の推移と現状及び技術センターの活動、業務内容を知る	帯広市の農業概要を紹介 技術センターの農産係、経営係の業務内容説明及びほ場視察
	畑作農家現地視察			1.0		畑作農家4戸	農家(酪農、新規就農農家、野菜農家、有機栽培農家等)の現状視察	農家の機械・施設・ほ場を見学
	農業行政の仕組み	0.5				農政課	農業と行政の関わりを理解する	農業行政の仕組みについての講義
農業の変遷	農業の歴史	0.5				農政課	日本の農業の歴史・変遷を知る	・日本の農業の歴史・変遷(ビデオ)
	農業機械			0.5		農業振興公社 百年記念館	昔の農作業機・農具の紹介	・昔の農作業機・農具(昔の機械展示庫)
				1.0		大塚農家、公社	畑作農家でほ場実習	播種機、カルチ、防除機
管理技術	作物栽培管理	3.5	3.5			農業振興公社	作物の栽培管理実習	各種管理作業(耕起・施肥・播種・移植・防除等)の実習
	土壌分析	0.5	0.5			農業振興公社	PH・EC簡易分析	分析実習/硝酸態窒素の土・作物の残留分析実習
	節水・灌水技術		0.5			農業振興公社	節水・灌水の各種方法の紹介	事例の紹介 (地表・散水・点滴・地中灌水)
	ファームステイ		2.0			畑作農家	農家の実作業を体験する	・農家作業体験 ・農家の生活体験
関連視察	道外研修			4.0		姫路市農業センター	都市近郊農家の現状	園芸せんたーの視察
					香川県満濃池土地改良区	水の確保	ため池視察	
					埼玉県農林振興センター	農業技術の実証と営農改善	営農組合について	
					種苗メーカー	種子・育苗の現状を見る	種子・育苗の現状の視察	
到達目標2: 効率的普及方法・体制を習得する								
試験研究	農業技術開発と技術普及の制度と現状	1.0				道立十勝農試技術普及部	北海道の試験研究の課題選定から研究成果の過程と、技術普及の制度を学ぶ	・研究課題の選定・研究方法・研究成果の活用 ・普及制度と技術普及の方法
農協	農協の制度と現状	0.5		0.5		JA川西	農協制度を理解し、集出荷の状況を見学する	農協制度・組合員勘定制度・生産組合制度と集出荷施設の見学
技術普及	農業普及事業の現状	0.5			0.5	十勝農業改良普及センター	試験研究結果を農家へ普及させる手法、地域の課題解決手法を学ぶ	・試験場からの研究結果の普及方法 ・農家・農協の課題(土づくり・地域づくり)
	農業者の取り組み				0.5	畑作農家(中藪)	農業者の技術普及分野の取り組み	農業者による技術普及に関する討論
	北海道立農業大学校視察	0.5		0.5		北海道立農業大学校	農業学校における人材育成を学ぶ	・北海道立農業大学校の取り組み ・カリキュラムの視察
農村振興	農村との交流事業			1.0		八千代牧場	農業まつりの意義と状況を理解し、農家グループの活動や農産物・加工品の販売状況を視察する	牧場まつり見学
	農村女性の活動			0.5		チャオ代表	農村女性による活動	事例紹介
農業共済制度	農業共済制度	0.5				農業共済組合	共済制度の仕組みと内容	査定の具体的な方法など
学術研究機関	大学の研究と教育の現状	0.5				帯広畜産大学 地域共同センター	大学教育と地域共同研究センターの研究の取り組みを学ぶ	・大学の教育研究制度 ・地域共同研究センターの共同研究の内容
到達目標3: 作物栽培普及における自国での地域課題を整理し、解決策の計画策定ができる								
課題の設定	研修課題検討				1.0	農政課 農業振興公社	研修員の仕事内容を把握し課題を整理する	課題の選定と分担
解決策の手法	PCM研修				2.0	コンサルタント(未定) 農政課/公社	研修員の課題解決のため、問題整理・解決手法を学ぶ	ワークショップによるPCM研修
解決策の構築	アクションプラン検討会				1.0	農政課 農業振興公社	研修員のアクションプランの具体化	アクションプランの具体的計画づくり
					1.0	農政課 農業振興公社	課題別に研修員間でアクションプランの内容を検討	アクションプラン内容の具体策について検討
					1.0	農政課 農業振興公社	アクションプラン発表指導	アクションプランの個別指導
その他								
発表会	J/R発表会				0.5			
	A/P発表会				0.5			
学校訪問				1.0				

(小計)

7.0

6.0

2.0

(小計) 9.5 7.5 9.5 8.0

34.5

月日	区分	時刻	カリキュラムとその内容	担当機関(講師名)	研修場所	
6/1	日		来日			
6/2	月		入館式、集合ブリーフィング	NRC	帯広国際センター	
6/3	火		ブリーフィング、オリエンテーション	NRC	帯広国際センター	
6/4	水		ジェネラルオリエンテーション	NRC	帯広国際センター	
6/5	木		日本語	NRC	帯広国際センター	
6/6	金		日本語	NRC	帯広国際センター	
6/7	土		休日			
6/8	日		休日			
6/9	月	9:00~9:30	市長表敬	帯広市役所	帯広市役所	
		10:00~12:00	コースオリエンテーション	帯広市農業振興公社 森脇 芳男	帯広国際センター	
検討会	13:30~16:30	研修課題検討会(1)	帯広市農業振興公社 森脇 芳男 帯広市農政課 西尾 達也			
6/10	火	検討会	9:30~12:00	研修課題検討会(2)	帯広市農業振興公社 森脇 芳男 帯広市農政課 西尾 達也	帯広国際センター
		発表会	13:30~16:00	ジョブレポート発表会	関係講師	
6/11	水	講義	9:30~12:30	農業概要(1)日本の農業	帯広市農業振興公社 森脇 芳男	帯広市農業技術センター
		講義	13:30~16:00	農業概要(2)十勝農業の変遷	帯広市農業振興公社 中井 敬二	
6/12	木	講義	9:30~12:00	農業概要(3)帯広市の農業	帯広市農政課 西尾 達也	帯広市農業技術センター
		講義・視察	13:00~16:00	農業技術センターの役割/農業技術センター圃場視察	帯広市農政課 西尾 達也	
6/13	金	講義	9:30~12:00	農協の制度と業務、農協の施設見学	JA川西 参事 遠藤 広行	帯広市川西農業協同組合 別府事業所
		視察	13:00~15:30		JA川西 別府事業所長 常田 馨	
6/14	土		休日			
6/15	日	10:00~14:00	八千代牧場まつり	帯広市農政課	八千代牧場	
6/16	月	講義・実習	9:30~12:00	栽培技術の実態と技術習得1 穀類(小麦・豆類)	帯広市農業振興公社 佐藤 允信 (サブ)帯広市農業振興公社 中井 敬二	帯広市農業技術センター
			13:00~16:00			
6/17	火	講義・実習	9:30~12:00	栽培技術の実態と技術習得2 根菜類(馬鈴薯・甜菜)	帯広市農業振興公社 佐藤 允信 (サブ)帯広市農業振興公社 中井 敬二	帯広市農業技術センター
			13:00~16:00			
6/18	水	視察	9:30~12:00	農業機械の視察	帯広市農業振興公社 中井 敬二	百年記念館 ホクレン中古機械センター
		ワーク ショップ	14:30~17:00	PCM研修	(株)グローバルリンクマネージメント	帯広国際センター
6/19	木	ワーク ショップ	9:30~12:00	PCM研修	(株)グローバルリンクマネージメント	帯広国際センター
			13:30~16:00			
6/20	金	ワーク ショップ	9:30~12:00	PCM研修	(株)グローバルリンクマネージメント	帯広国際センター
			13:30~16:00			
6/21	土		休日			
6/22	日		休日			
6/23	月	視察	9:30~12:00	農家現地視察(酪農、畑作、野菜、有機栽培農家)	広瀬、大塚、笹原、藪田	市内農家ほ場
			13:00~15:00			
6/24	火	講義・実習	9:30~12:00	作物栽培管理実習1(播種準備作業)	帯広市農業振興公社 鳥倉 英徳 (サブ)帯広市農業振興公社 中井 敬二、宮部 和義	帯広市農業技術センター
			13:00~16:00			
6/25	水	実習	9:30~12:00	農業機械実習(播種機・カルチ・防除機他)	農家 大塚 正昭 (サブ)帯広市農業振興公社 鳥倉 英徳、中井 敬二	帯広市農業技術センター
			13:00~16:00			
6/26	木	講義・実習	9:30~12:00	作物栽培管理実習2(作物の播種、移植)	帯広市農業振興公社 鳥倉 英徳 (サブ)帯広市農業振興公社 中井 敬二、宮部 和義	帯広市農業技術センター
			13:00~16:00			
6/27	金	講義・実習	9:30~12:00	作物栽培管理実習3(病害虫と雑草の管理)	帯広市農業振興公社 鳥倉 英徳 (サブ)帯広市農業振興公社 中井 敬二、宮部 和義	帯広市農業技術センター
			13:00~16:00			
6/28	土		休日			
6/29	日		休日			
6/30	月	講義・実習	9:30~12:00	病害虫の対策と管理	帯広市農業振興公社 鳥倉 英徳	帯広市農業技術センター
			13:00~16:00			
7/1	火	講義・実習	9:30~12:00	生育調査実習	帯広市農業振興公社 佐藤 允信 (サブ)帯広市農業振興公社 中井 敬二	帯広市農業技術センター
			13:00~16:00			

7/2	水	討論	9:30~12:00 13:00~16:00	アクションプラン検討会1	帯広市農業振興公社 森脇 芳男 帯広市農政課 西尾 達也	帯広市農業技術センター
7/3	木	視察		学校訪問		
7/4	金	実習		農家滞在研修:ファームステイ(1)	畑作農家	畑作農家
7/5	土	実習		農家滞在研修:ファームステイ(2)	畑作農家	畑作農家
7/6	日			休 日		
7/7	月	討論	9:30~12:00	農業者の取組み(技術普及分野における取組み)	畑作農家 中藪 俊秀	帯広市農業技術センター
		視察	13:30~16:00	農村女性の活動事例紹介	チャオ代表 児玉 珠実	広野町児玉農場
7/8	火	講義	9:30~12:00 13:00~16:00	農業技術開発と技術普及の制度と現状	十勝農業試験場 技術普及部	北海道立十勝農業試験場
		講義	9:30~12:00 13:30~16:00	農業普及事業の現状と仕組み	十勝農業改良普及センター (帯広市農業振興公社 森脇 芳男)	十勝農業改良普及センター
7/9	水	実践	13:30~16:00			
		実習	9:30~12:00	簡易土壌分析の習得	帯広市農業振興公社 鳥倉 英徳 (サブ)帯広市農業振興公社 佐藤 允信	帯広市農業技術センター
7/10	木	講義	13:00~16:00			
		討論	9:30~12:00 13:00~16:00	アクションプラン検討会2	帯広市農業振興公社 森脇 芳男 帯広市農政課 西尾 達也	帯広市農業技術センター
7/11	金			休 日		
7/12	土			休 日		
7/13	日	道外研修		帯広→京都		
7/14	月	道外研修	10:00~12:00	タキイ種苗視察	タキイ種苗(株)	タキイ研究農場
7/15	火	道外研修	10:00~12:30	都市近郊の農業と関連する各施設の視察	姫路市園芸センター	姫路市園芸センター
7/16	水	道外研修	10:00~12:00	溜池による灌水施設活用農業の現地視察	満濃池土地改良区	香川県満濃池
7/17	木	道外研修		宇多津市→東京		
7/18	金	道外研修	10:00~12:00	東京近郊の農業の現状視察	さいたま農林振興センター	さいたま農林振興センター
7/19	土	道外研修		東京→帯広		
7/20	日			休 日		
7/21	月					
7/22	火	講義・視察	10:30~12:00 13:00~15:00	北海道立農業大学校視察	北海道立農業大学校	北海道立農業大学校
		講義	9:30~12:00 13:00~16:00	農業共済制度 指定病害対策	十勝農業共済組合農作部 西田 幸博 帯広市農政課 柴山 英介	帯広市農業技術センター
7/23	水	講義	9:30~12:00 13:00~16:00	大学の研究と教育の状況	帯広畜産大学地域共同研究センター センター長 関川 三男	帯広畜産大学地域共同研究センター
		講義・視察	9:00~11:30 13:30~16:00	甜菜の栽培技術・ビート資料館見学	日本甜菜製糖(株)総合研究所 斉藤 英俊	ビート資料館
7/24	木	講義	9:30~12:00	農業行政の仕組み	帯広市農政課 西尾 達也	帯広市農業技術センター
		実習	13:00~16:00	作物栽培管理実習4 節水灌水	帯広市農業振興公社 中井 敬二 (サブ)鳥倉 英徳、宮部 和義	
7/25	金			休 日		
7/26	土			休 日		
7/27	日			休 日		
7/28	月	討論	9:30~12:00 13:00~16:00	アクションプラン実施検討会(リハーサル)	帯広市農業振興公社 森脇 芳男 帯広市農政課 西尾 達也	帯広国際センター
			10:00~12:00	評価会	帯広市農業振興公社 森脇 芳男	帯広国際センター
7/29	火	発表会	13:30~16:00	アクションプラン発表会	関係講師	
			16:00~17:30	閉講式・閉講パーティ	関係者	
7/30	水			帰国		

年度別受入実績表

1. 応募／選定（受入）人数

	平成19年度	平成20年度	累計
応募数	12名	8名	20名
受入数	10名	8名	18名

2. 国別受入人数

○男性 ●女性

国名	平成19年度	平成20年度	累計
(アジア地域)			
ブータン	○○		2名
ネパール	○○		2名
パキスタン		○	1名
(アフリカ地域)			
ケニア	○○	●●	4名
マラウイ	○○	○○	4名
ジンバブエ	●●	○○●	5名
合計	5カ国 10名	4カ国 8名	6カ国 18名